

「共犯者たちの空」

—初稿—

2026/3/4

雨森 れに

〈人物表〉

山本 真白 やまもと ましろ

(17)

高校2年生。車椅子

藤原 晴喜 ふじわら はるき

(17)

高校2年生。不良

幸田 利光 こうだ としみち

(44)

高校教諭

顧問

1. 学校・中庭(昼)

高校の中庭。

茂みから勢いよくペットボトルロケットが飛び出す。ロケットは3階廊下の窓ガラスへ直撃。ガラスの割れる音。

2. 学校・校舎・3階廊下(昼)

生徒たちが騒然としている。

ガラスの破片が散乱し、ロケットはねずみ花火のよう
に暴れている。

3. 学校・中庭(昼)

駆け付けた幸田利光(44)、茂みを掻きわける。
簡易的な発射台が残されており、傍にワイン缶ポ
ルが落ちている。

物陰で様子を伺う藤原晴喜(17)、いかにも不良
という雰囲気。へらへらと笑っている。

幸田、晴喜の存在に気づき、

幸田 「またお前かあ！」

猪のように突進。

車椅子の山本真白(17)が通りがかり、

真白 「きゃあ！」

幸田が車輪を蹴とばしたため、ぐらつく。

晴喜、いつの間にか近づいており、車椅子を掴む。

晴喜 「コッちゃん、周り見えてなさすぎ」

幸田、舌打ち。

幸田 「山本、大丈夫か」

真白 「大丈夫です。でも車椅子になんかあったら請求しまーす
と、茶目っ気のある笑顔。

幸田、苦笑い。

晴喜 「なくても請求しちゃえよ。2割ぐらい増してよ。んで俺
にくれ」

幸田、怒りが再熱。

幸田 「お前は！ とんでもないことしかした上に、なんだぞ

の態度は！」

晴喜 「さっきのロケットのこと？ わりいけど俺じゃねえよ」

幸田 「お前以外いないだろ。ほら！」

幸田、ワインの缶ボトルを見せる。

晴喜 「俺がこの前ご指導受けた時のじゃん」

真白、晴喜を見上げる。

幸田 「料理に使うって嘘ついて飲んでたやつな」

晴喜 「だから飲んでねえって」

幸田 「今はそんなことどうでもいいんだよ。これが証拠なんだからよ」

晴喜、真白に向けて肩をすくめる。

真白、小さく首を振る。

真白 「幸田先生、晴喜くんはやってないんです。実は——」

幸田 「山本、庇わなくていい。藤原はこっちこい！」

幸田、晴喜を掴んで歩き出す。

晴喜、真白に向かってひらひらと手を振る。

真白、眉をへの字に曲げる。

4. 学校・指導室(昼)

幸田と晴喜が向き合って座っている。

幸田、缶ボトルを机の上に置く。

幸田 「藤原ア、こんなんじゃないそろそろ退学だぞ」

晴喜 「一回停学になってるしなあ。まあ、コッチちゃんの早とちりのせいだけだ」

幸田 「まだ言うか。あの時、酒臭かっただろうが」

指導室の外、真白の影が過ぎる。

同時に扉の前で車輪のブレーキ音。

晴喜、へらっと笑う。

幸田 「笑うんじゃない！」

5. 学校・指導室前・廊下(昼)

真白、指導室の様子を探ろうとしている。

車椅子が邪魔で扉に耳を当てれない。

仕方なく扉を薄く開く。

幸田の後姿ごしに、晴喜の顔。へらへらしている。

晴喜 「笑うしかないっしょ。前回も今回も、俺やってねえもん」

幸田 「じゃあ誰がやったっていうんだ」

晴喜 「てか、今日は酒臭くないっしょ？」

晴喜、幸田に向けて息を吐く。

幸田 「お前は俺をバカにしてんのか！」

幸田、机を殴る。

真白、扉をノック。

晴喜、意外という表情。

6. 学校・指導室（昼）

晴喜と真白が並んで座っている。

幸田、ため息。

幸田 「山本、無理ありすぎだろ」

真白 「ホントです。私がロケットの犯人なんです」

幸田 「あのなあ。脅されてるならそう言え？ ちゃんと守ってやるから」

晴喜、不満そうに真白を見る。

晴喜 「そーだよ。脅されてるって言えよ」

真白 「バカじゃないの」

幸田 「ロケットは山本だとしても、酒は藤原だろ？」

真白 「違います。その缶も私です」

幸田、真白と距離を取りつつ匂いを嗅ぐ。

真白、嫌そうな顔。

晴喜、たまらず吹き出す。

晴喜 「セクハラじゃん」

幸田 「お前は黙っとけ！ 山本も酒臭くないな」

真白 「飲んでないですもん。化学準備室からエタノールを持ってくるときに使ったんです」

幸田が眉をひそめる。

真白 「エタノールを使うとすぐく飛ぶんです。だから科学部の顧問に相談したんですけど……」

7. 回想・学校・化学準備室（夕）

ホルマリン漬けや薬剤、様々な器具が保管されている教室。

真白、資料のレジユメを持って顧問に説明中。

真白 「とういうわけで実験したいです！ どこでやればいいですか？ 何か申請とかありますか？」

顧問 「いや、許可できないよ。何かあった時ね。君、すぐ逃げられないでしょ」

真白、レジユメを持つ手に力がこもる。

笑顔を保って、

真白 「大丈夫です！ 誰かと一緒にやるので！」

顧問 「駄目だね。ほら、もう帰りなさい」

顧問、車椅子を強引に押し始める。

真白 「えっえっちよっと！」

顧問 「昇降口まで送ってあげよう。大人しくしなさい」

真白、レジユメを握りしめる。

× × ×

晴喜、ベランダで座って空を仰いでいる。手には缶ボトル。

ゆらりと立ち上がり、室内へ。

薬剤の棚からエタノールを探し出す。

缶ボトルへ注ぐ。

8. 回想・学校・昇降口（夕）

誰もおらず静か。

顧問 「今日はお迎えがないんだね？ 気を付けて帰るんだよ」

真白 「……ありがとうございます」

顧問が去り、真白が車輪を押し始める。

晴喜の声 「真白さあ。これ何かわかる？」

真白、振り返る。

晴喜、缶ボトルを振る。

真白 「バカじゃないの！？ しまいなよ、それ！」

晴喜 「誰もいねえよ。これ、中身エタノールだったらどーする」

真白、目を輝かせる。

晴喜 「明日の昼休みとか、どうよ」

真白 「晴喜、ナイス」

真白、親指を立てる。 (回想終了)

9. 学校・指導室(昼)

真白 「で、進路を見誤って、その、3階にですね……」

幸田、額を擦る。

真白と晴喜の顔を見比べ、そして缶ボトルを見る。

蓋を開け、匂いを嗅ぐ。

幸田 「病院クサ……」

晴喜 「注射思いつすよなあ」

真白 「なんでアンタはいつもチャチャ入れんの」

幸田、怒る気力がない。

幸田 「藤原。もしかして前回の停学って」

晴喜 「あん時、何度も言ったけどさ。バレンタインな。酒入りの

のがあったんだよ。ワインはビーフシチュー用ね」

幸田、頭を抱える。

晴喜 「別にいいよ。でも、代わりにお願い聞いてくんない？」

真白、不思議そうに晴喜を見る。

10. 学校・屋上(昼)

空高く飛んでいくペットボトルロケット。

放射線を描いて屋上に落ちる。

屋上で寝転がっている真白と晴喜。

真白 「晴喜、ナイス」

晴喜 「未来の科学者様、このご恩はお金で」

真白 「私の小学生の時の夢じゃん」

晴喜 「女子はパティシエとか女子アナばっかだったじゃん？

インパクトすごかったし」

真白 「この足でも叶えられる夢がよかっただけ」

晴喜、鼻で笑い、上体を起こす。

おもむろに電子煙草をくわえる。

真白 「マジで退学案件じゃん」

晴喜 「バレねえよ。今は貸切、立ち入り禁止」

真白 「なら私にもちよーだい」

晴喜、電子煙草を真白に差し出す。

真白、ひと吸い。

口からふわりと煙が出る。

煙は青空の雲と重なり、溶けていく。

晴喜、立ち上がりロケットを拾う。

発射台に再装填。

ロケットが飛び出す。

ふたりは空を仰ぐ。

おわり